



インストール後

- ・インストール後のタスクの概要 (1 ページ)

インストール後のタスクの概要

クラスタの設定が正常に完了したら、次の追加のインストール後タスクを実行して、クラスタが VM に対応できる状態になっていることを確認します。

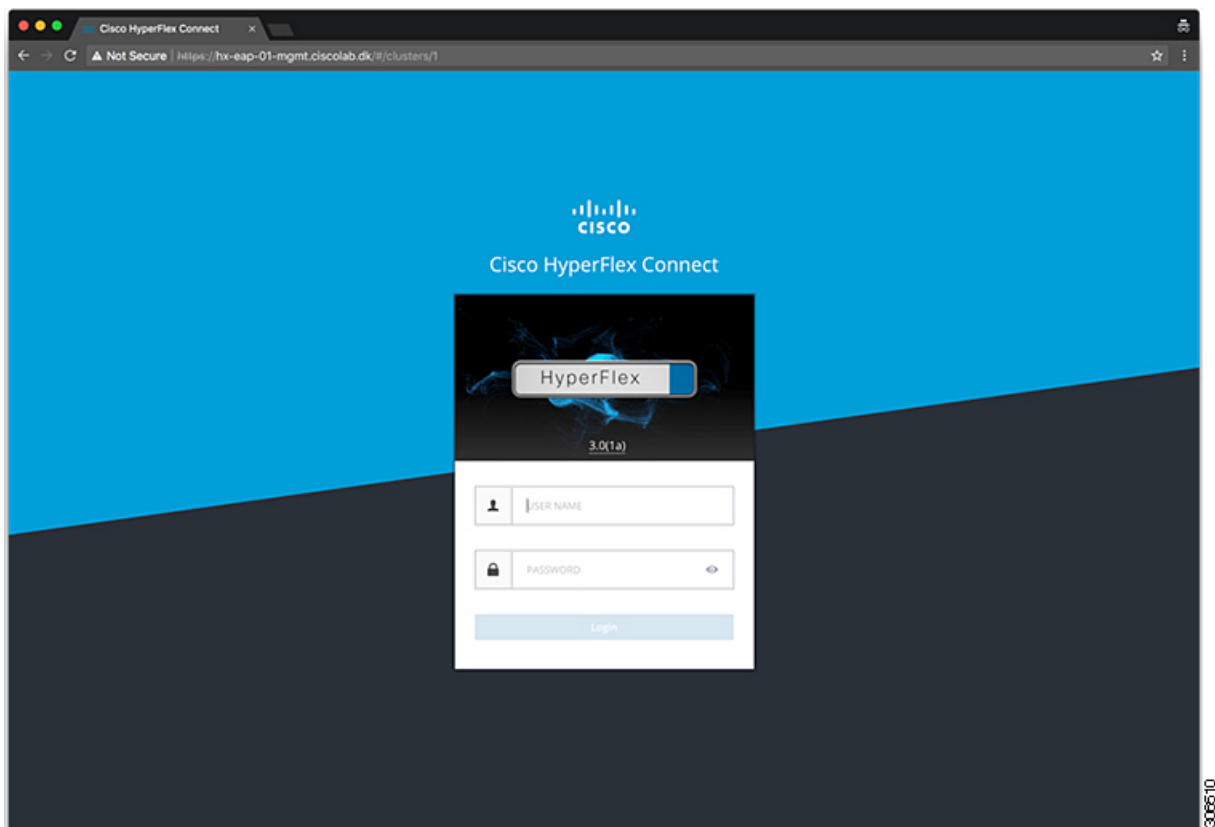
タスク	参考資料
最初のデータストアの作成	最初のデータストアの作成 (2 ページ)
ライブマイグレーションと VM ネットワークの静的 IP アドレスの割り当て	ライブマイグレーションと VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定 (3 ページ)
(オプション) 制限された委任	(任意) インストール後の制限付き委任 (4 ページ)
ローカル デフォルト パスの設定	ローカル デフォルト パスの設定 (5 ページ)
ファイル共有監視の設定	ファイル共有監視の設定 (6 ページ)
Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認	Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認 (12 ページ)
フェールオーバー クラスタ マネージャの検証	フェールオーバー クラスタ マネージャの検証 (12 ページ)
アップストリームフェールオーバーをテストする	ストレージデータ ネットワークのアップストリームフェールオーバーのテスト
Hyper-V クラスタへの VM の展開	Hyper-V クラスタへの VM の展開 (14 ページ)
SCVMM への HyperFlex 共有の設定	SCVMM への HyperFlex 共有の設定 (22 ページ)
Windows Defender の再有効化	Windows Defender の再有効化 (24 ページ)

タスク	参考資料
スタンドアロン Hyper-v ホストと HX Hyper-v ホスト間の VM 移行。	ホスト間の VM の移行 (24 ページ)

最初のデータストアの作成

クラスタを使用する前に、データストアを作成する必要があります。データストアはHXConnect UI で作成できます。

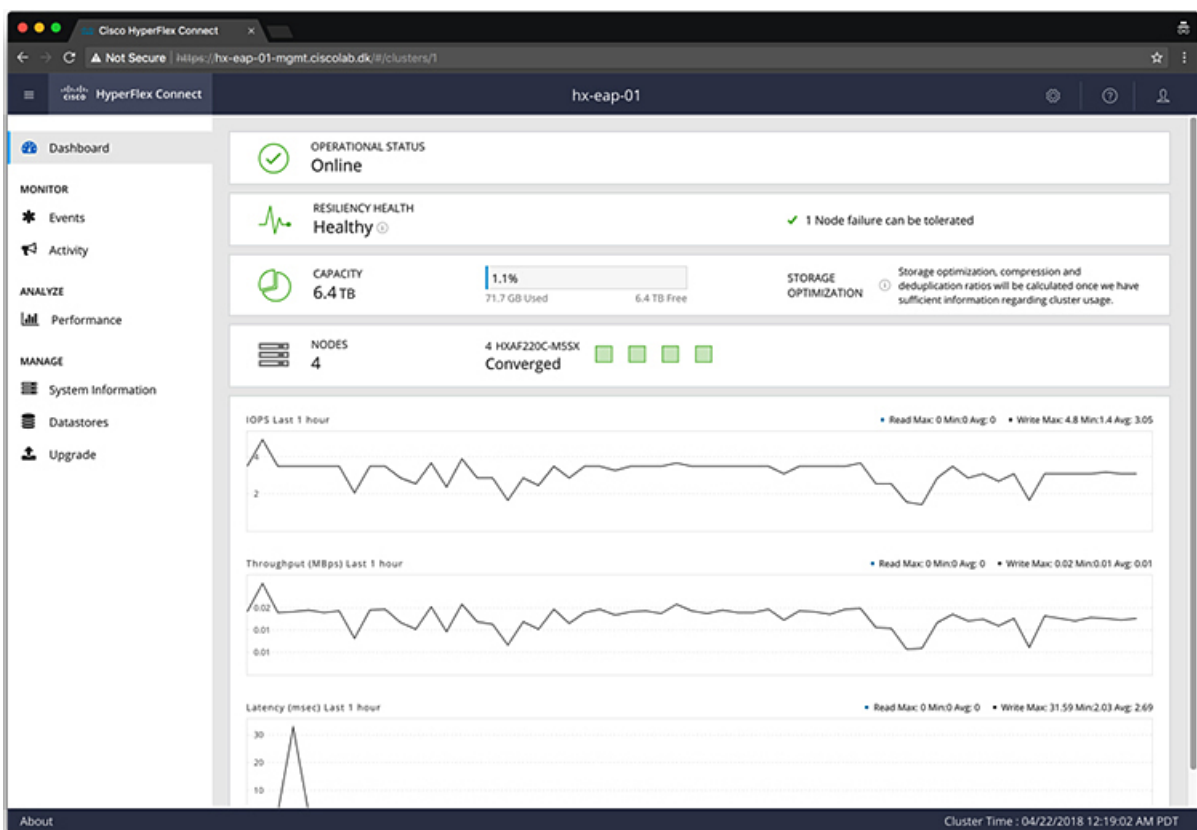
ステップ 1 `https://Cluster_IP/` または `https://FQDN` から、任意のブラウザで HX Connect UI を起動します。



ステップ 2 次のクレデンシャルでログインします。

- ユーザ名 : **hxadmin**
- パスワード : クラスタのインストール時に設定されたパスワードを使用します。

ステップ 3 ナビゲーション ウィンドウで [データソース (Datasource)] を選択します。



ステップ 4 [作業 (Work)] ペインで [データストアの作成 (Create Datastore)] をクリックします。

ステップ 5 [データストアの作成 (Create Datastore)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
データストア名	データストア名を入力します Cisco では、データストア名にすべて小文字を使用することを推奨しています。
サイズ	データストアのサイズを選択します。
ブロックサイズ	データストアのブロック サイズを選択します。

(注) パフォーマンスを最大限に引き出すため、ブロックサイズとして 8K を使用し、データストアの数は可能な限り少なくすることが推奨されます。

ライブマイグレーションと VM ネットワークの静的 IP アドレスの設定

各 Hyper-V ノードにログインし、Power Shell で次のコマンドを実行して、ライブマイグレーションと VM ネットワークの静的 IP アドレスを割り当てます。

#	コマンド	目的
1	<code>New-NetIPAddress -ifAlias "vSwitch-hx-livemigration" -IPAddress 192.168.73.21 -PrefixLength 24</code>	静的 IP アドレスを ライブ移行 ネットワークに割り当てます。
2	<code>New-NetIPAddress -ifAlias "vswitch-hx-vm-network" -IPAddress 192.168.74.21 -PrefixLength 24</code>	静的 IP アドレスを VM ネットワークに割り当てます。

(任意) インストール後の制限付き委任



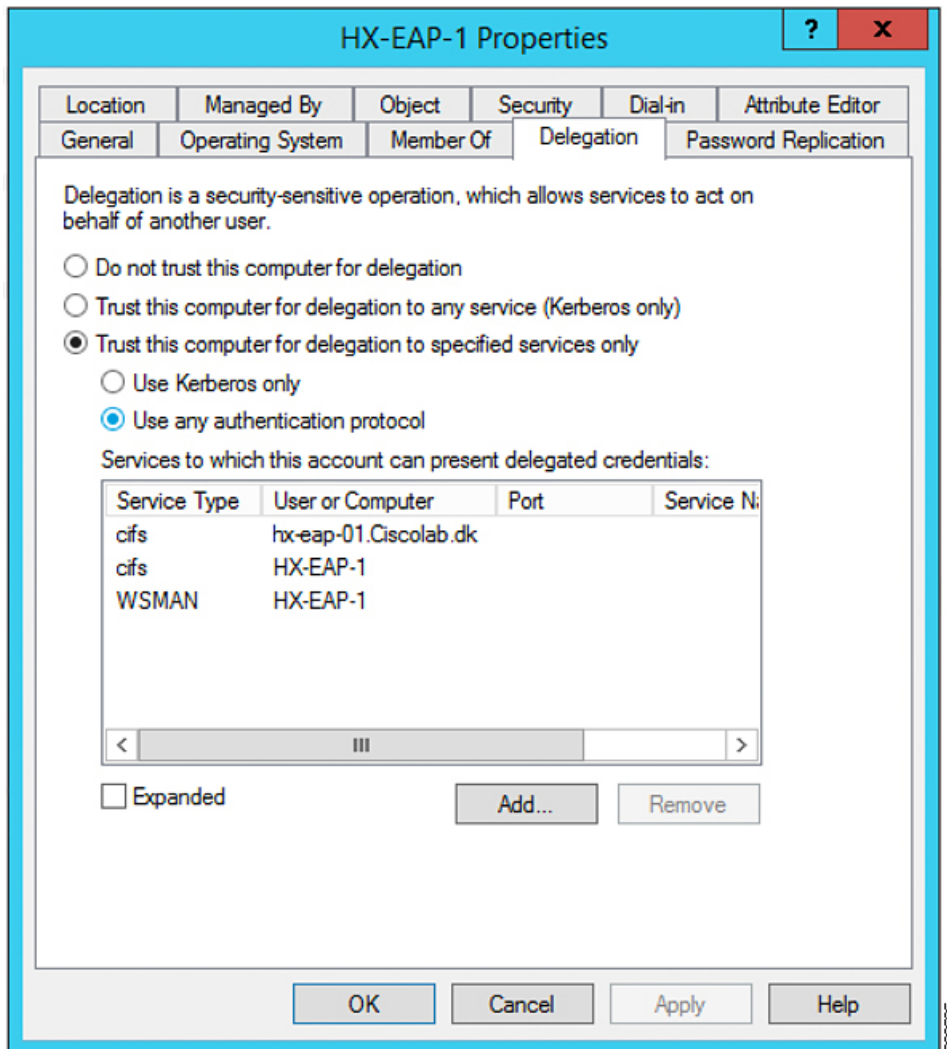
注目 この手順は、初期インストール時に制限付き委任を設定していない場合にのみ実行する必要があります。この手順は、インストール後ではなく、HX のインストーラを使用して実行することをお勧めします。

制限付き委任により、偽装をきめ細かく制御できます。リモート管理要求が Hyper-V ホストに対して行われた場合、発信者の代理としてストレージにそれらの要求を行う必要があります。これは、HX ストレージの CIFS サービス プリンシパルの委任についてそのホストが信頼できる場合に許可されます。

制限付き委任では、セキュリティ設定の [ユーザアカウント制御：管理者承認モードでの管理者の昇格プロンプトの動作 (User Account Control: Behavior of the elevation prompt for Administrators in Admin Approval Mode)] が [プロンプトなしで昇格 (Elevate without Prompting)] に設定されている必要があります。これにより、グローバル AD ポリシーが HXOU のポリシーをオーバーライドすることを防ぎます。

HX クラスターの各 Hyper-V ホストで次の手順を実行して、Windows の [Active Directory ユーザとコンピュータ (Active Directory Users and Computers)] を使用して設定してください。

- ステップ 1 [スタート (Start)]、[管理ツール (Administrative Tools)]、[Active Directory ユーザとコンピュータ (Active Directory Users and Computers)] の順にクリックします。
- ステップ 2 ドメインを展開し、コンピュータ フォルダを展開します。
- ステップ 3 右側のペインでコンピュータ名 (例：HX-Properties) をクリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- ステップ 4 [委任 (Delegation)] タブをクリックします。
- ステップ 5 [指定されたサービスへの委任でのみこのコンピュータを信頼する (Trust this computer for delegation to specified services only)] を選択します。
- ステップ 6 [任意の認証プロトコルを使用する (Use any authentication protocol)] が選択されていることを確認します。
- ステップ 7 [追加 (Add)] をクリックします。[Add Services (サービスの追加)] ダイアログ ボックスで、[Users or Computers (ユーザーまたはコンピュータ)] をクリックし、サービスタイプの名前を参照するか入力します (CIFS など)。[OK] をクリックします。次の図を例として使用できます。



ステップ 8 すべてのノードに対してこれらの手順を繰り返します。

ローカル デフォルト パスの設定

VM のデフォルト ローカル パスは、HX クラスタ データストア上のパスになるように設定します。

PowerShell で次のコマンドを実行します。

```
$Creds = Get-Credential -Message "User Credentials" -UserName <<current logon username>>
$hosts = ("hostname1","hostname2","hostname3","hostname4")
Invoke-Command -ComputerName $hosts -Credential $Creds -ScriptBlock {Set-VMHost
-VirtualHardDiskPath
"\HX-EAP-01.ciscolab.dk\DS1_8K" -VirtualMachinePath "\\HX-EAP-01.ciscolab.dk\DS1_8K"}
```



(注) ユーザ名は、ドメイン管理者アカウントまたはHX サービスアカウントのいずれかにする必要があります。Hyper-V ホストのローカル管理者は機能しません。



(注) 環境に適合するように変数を変更することを忘れないでください。

ファイル共有監視の設定

Microsoft ベストプラクティスとして、クォーラム監視データストアを設定していることを確認します。**Failover Cluster Manager (FCM)** を使用してファイル共有監視を設定するには、次の手順を使用します。ファイル共有監視は、ネットワーク上のノードで障害が発生した場合に、フェールオーバークラスタのハイアベイラビリティを保証します。具体的には、フェールオーバークラスタクォーラムを維持するためにファイル共有監視が必要になります。これは、ネットワーク内のパーティションとノードのサブセットが相互に通信できない場合に発生する可能性のあるスプリットブレインシナリオを回避するように設計されています。詳細については、「[クラスタとプールのクォーラムについて](#)」を参照してください。



(注) HX クラスタでは、ストレージは可用性が高く、ホストがストレージにアクセスできなくなるように設計されています。1個のホストがデータストアへの書き込みを停止した場合、Microsoft のストレージ復元動作が開始されます。ホストは、デフォルトで 30 分間、ストレージとの接続確立を繰り返し再試行します。この間、ユーザー VM は一時停止する可能性があります。30 分後に接続できない場合、VM は「停止」状態に移行します。

次の手順では、Microsoft Windows 2016 のファイル共有監視を設定する方法について説明します。Microsoft Windows 2019 を導入する場合は、HyperFlex 共有または他のファイル共有を監視として使用しないでください。Microsoft は、今後のパッチリリースで解決される Windows 2019 の不具合を特定しました。それまで、監視を行わずに Microsoft Windows 2019 フェールオーバークラスタを設定する必要があります。



(注)

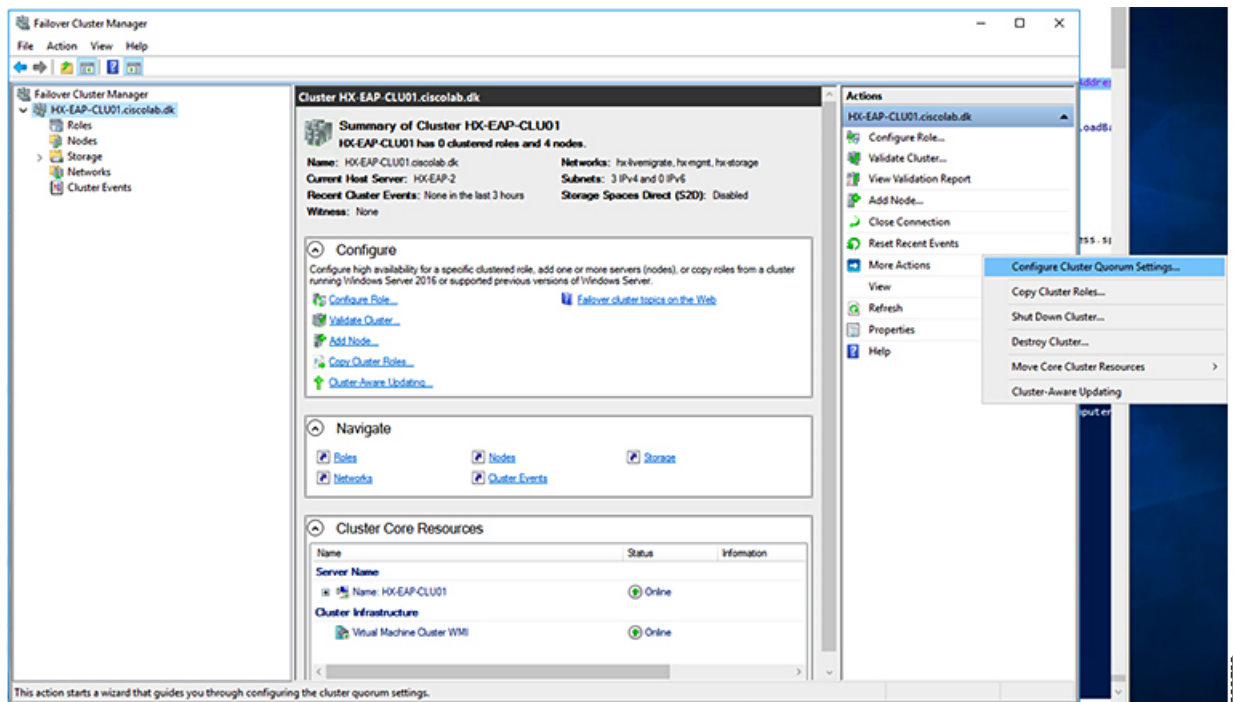
- ファイル共有監視として Microsoft Windows 2019 および計画を使用してファイル共有 (HX 共有を含む) を使用する場合は、設定する前に <https://support.microsoft.com/en-us/help/4497934> パッチをインストールする必要があります。
- ファイル共有をクォーラム監視として使用しない場合は、Microsoft Windows 2019 で説明されている他のクォーラム方式を使用できます。

始める前に

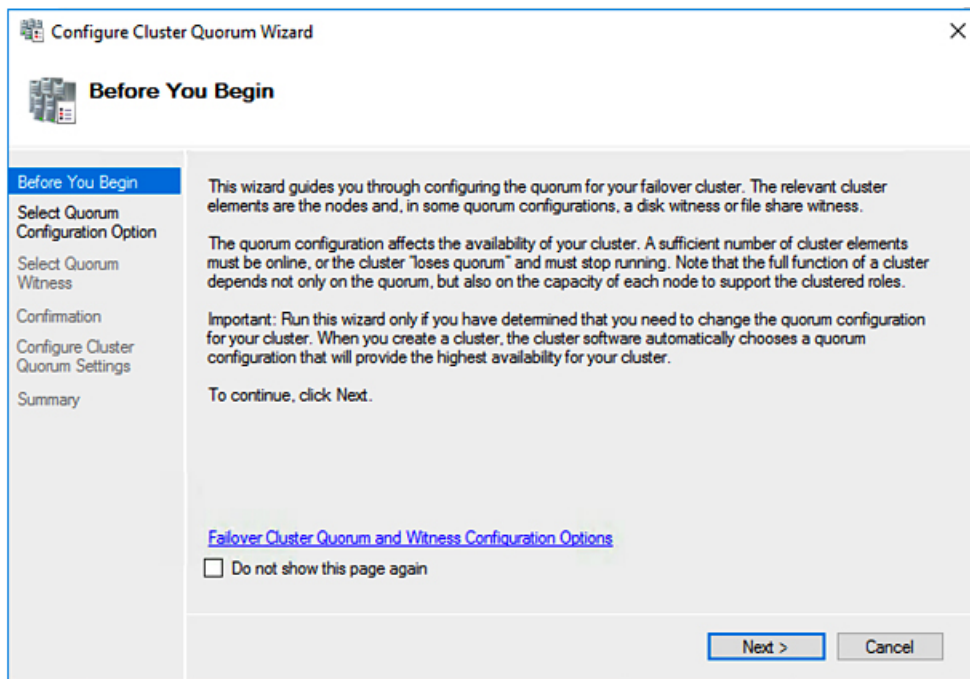
Microsoft は、2019 年 11 月 12 日に Windows 2019 に適用されるセキュリティパッチをリリースしました。Windows 2019 を実行している場合、次の手順でファイル共有監視を設定する前に、パス レベルでパッチを使用して Hyper-V ホストをアップグレードします。詳細については、Microsoft の記事「[November 12, 2019: KB4523205 \(OS Build 17763.864\)](#)」を参照してください。

ステップ 1 FCM を起動します。

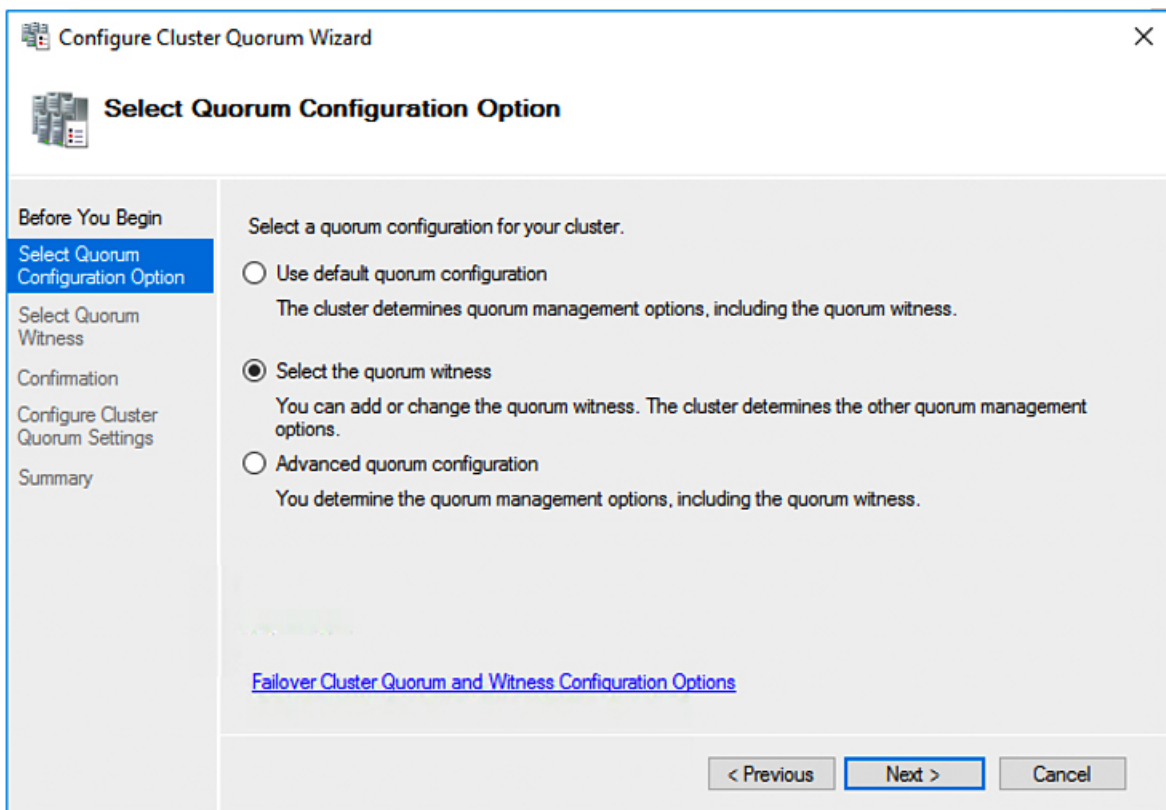
ステップ 2 ナビゲーション ウィンドウでクラスタを選択します。次に、[Actions] ウィンドウで、[More Actions] > [Configure Cluster Quorum Settings...] を選択します。。



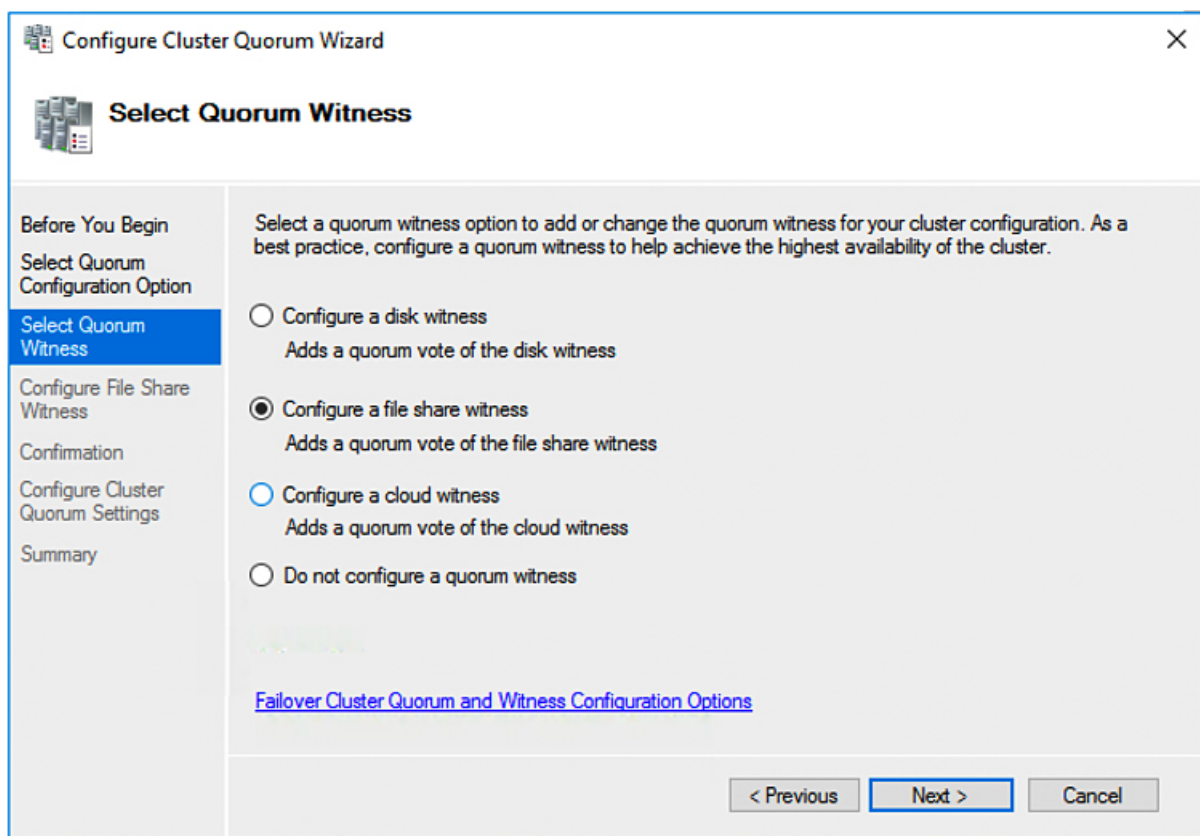
ステップ 3 [クラスタクォーラム設定の構成 (Configure Cluster Quorum)] ウィザードが起動します。[次へ (Next)] をクリックします。



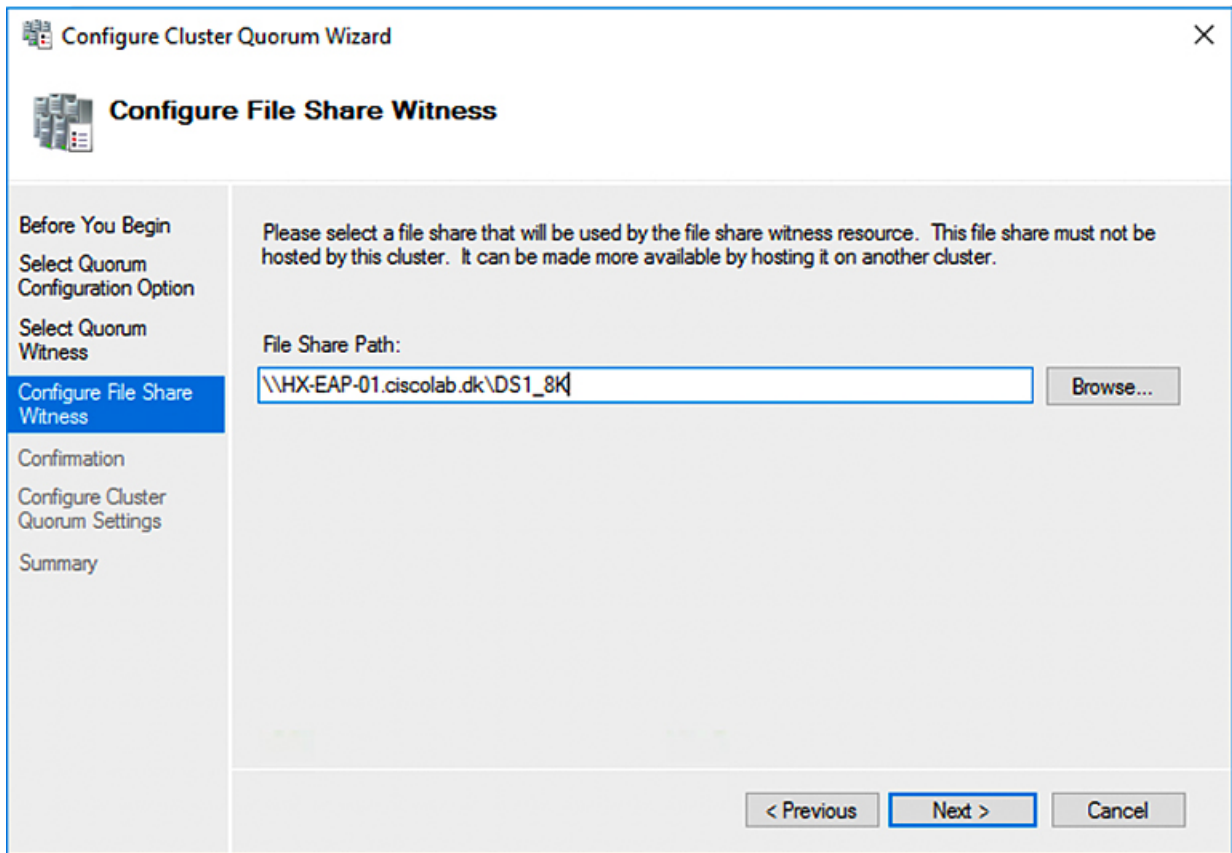
ステップ 4 [クォーラム構成オプションの選択 (Select Quorum Configuration Option)] 画面で [クォーラム監視を選択する (Select the quorum witness)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



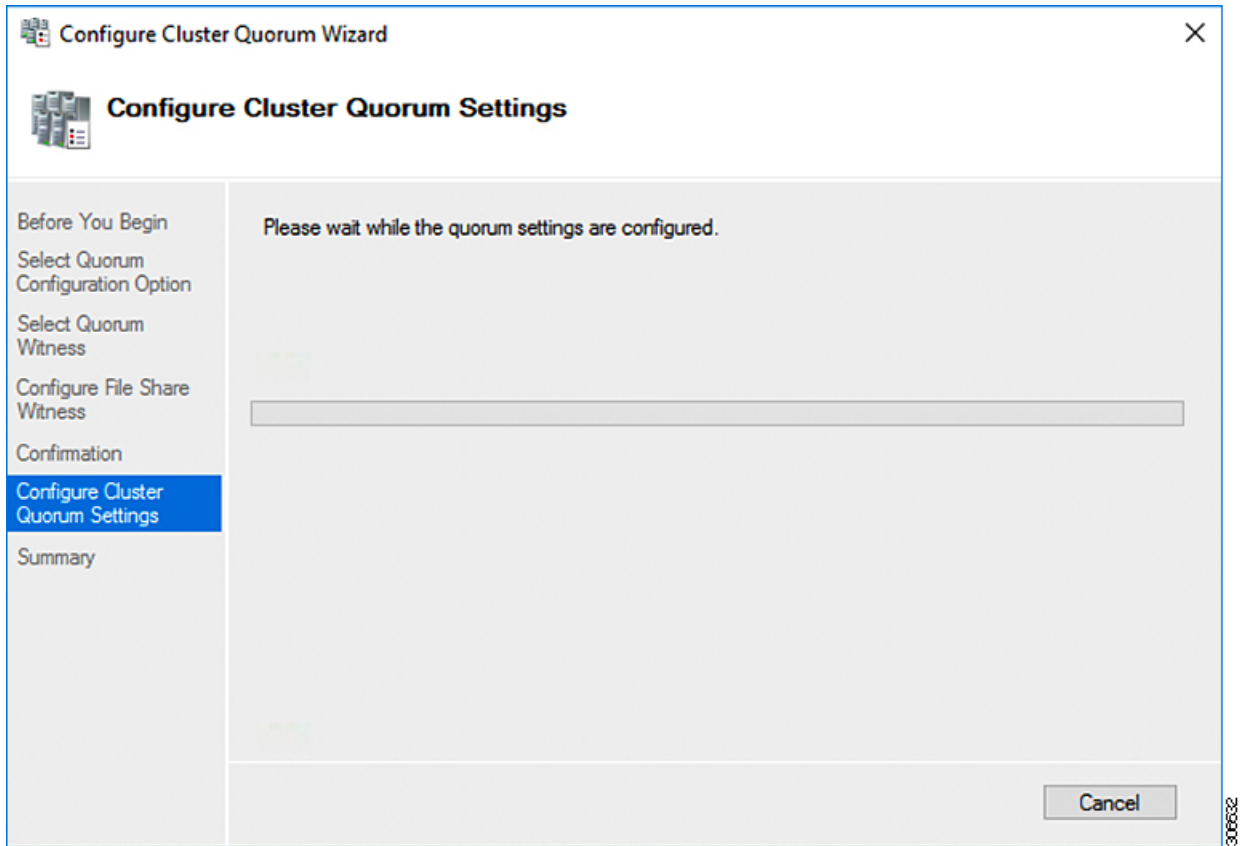
ステップ 5 [クォーラム監視の選択 (Select Quorum Witness)] 画面で [ファイル共有監視を構成する (Configure a file share witness)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 6 [ファイル共有監視の構成 (Configure File Share Witness)] 画面で、ファイル共有のパスを指定します。[次へ (Next)] をクリックします。



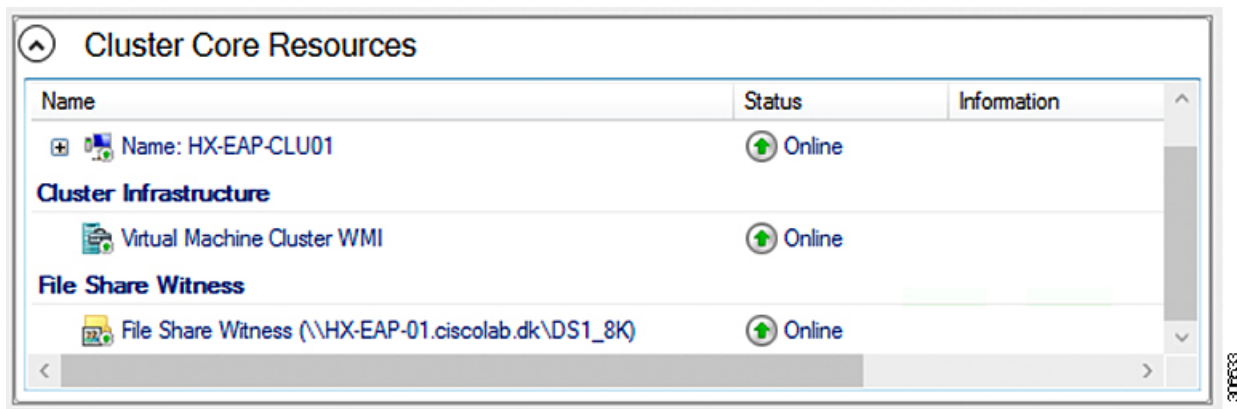
ステップ7 [確認 (Confirmation)] 画面で、[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 8 [概要 (Summary)] 画面で [完了 (Finish)] をクリックし、ウィザードを閉じます。

ステップ 9 または、Windows PowerShell を使用してファイル共有監視を設定することもできます。

- a) タイプ `Set-ClusterQuorum FileShareWitness <ファイル共有監視パス>`
- b) **Set-ClusterQuorum FileShareWitness <ファイル共有ウィットネス パス>**とタイプします
- c) ご使用のクラスタに合わせて設定されたファイル共有監視が表示されます。ファイル共有監視の共有に移動すると、ご使用のクラスタ用に作成されたフォルダが表示されます。



Hyper-V ホストの Windows バージョンの確認

インストールされている Windows のバージョンを確認するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 管理者または HX サービスの管理者アカウントとして Hyper-V サーバーにログインします。

ステップ 2 PowerShell で次のコマンドを実行してください。

```
C:\Users\adminhyperflex> Get-ItemProperty 'HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion'
```

ステップ 3 コマンド出力の結果で、インストールされている Windows のバージョンを確認します。

次に、Windows Server 2016 をインストールした場合の出力例を示します。

```
ProductName : Windows Server 2016 Datacenter  
ReleaseId : 1607  
SoftwareType : System  
UBR : 447
```

次に、Windows Server 2019 をインストールした場合の出力例を示します。

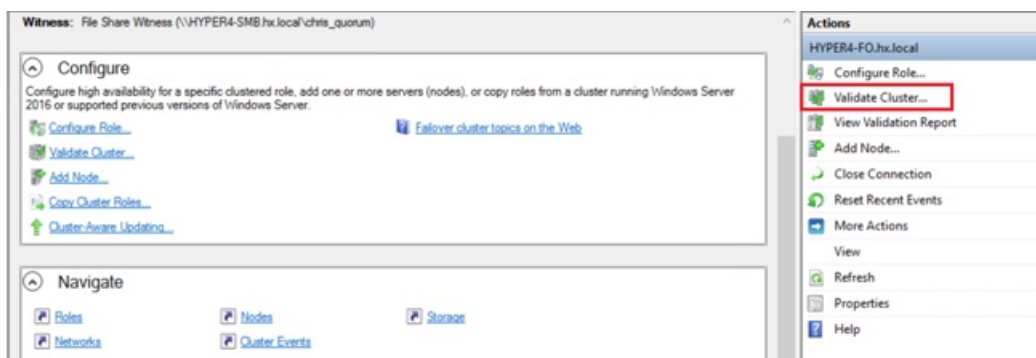
```
ProductName : Windows Server 2019 Datacenter  
ReleaseId : 1809  
SoftwareType : System  
UBR : 107
```

ステップ 4 さらに、次のことを確認します。

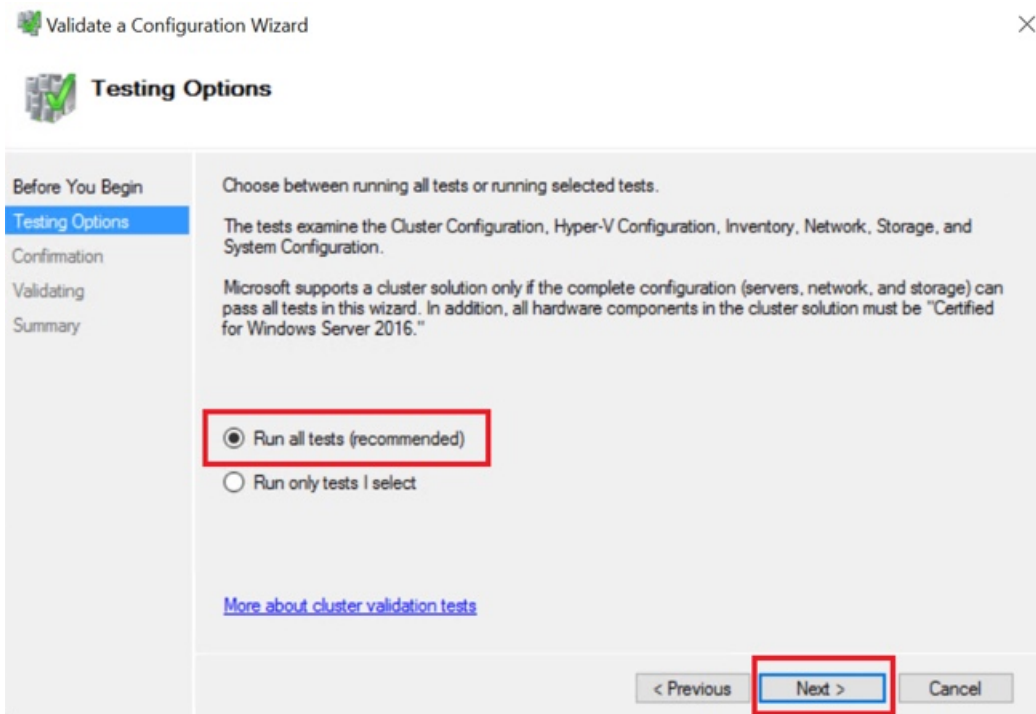
- Windows Server 2016 Datacenter Core & Desktop Experience では、Windows 2016 ISO イメージは少なくとも Update Build Revision (UBR) 1884 である必要があります。それ以外の場合は、HyperV サーバを最新の更新にアップグレードします。『*Microsoft ナレッジベースの記事: KB4467691*』を参照してください。
- スタンドアロンの Hyper0V マネージャーを HX ノードの外部で使用している場合は、Hyper-V 管理サーバのバージョン UBR 番号が 1884 よりも大きい必要があります。バージョンが 1884 かそれ以前のバージョンの場合は、Hyper-V 管理サーバをアップグレードする必要があります。
- Windows Server 2019 Desktop Experience では、Windows 2019 ISO イメージは少なくとも Update Build Revision (UBR) 107 である必要があります。

フェールオーバー クラスタ マネージャの検証

ステップ 1 フェールオーバー クラスタ マネージャを開き、[クラスタの検証 (Validate Cluster)] をクリックして、[次へ (Next)] をクリックします。

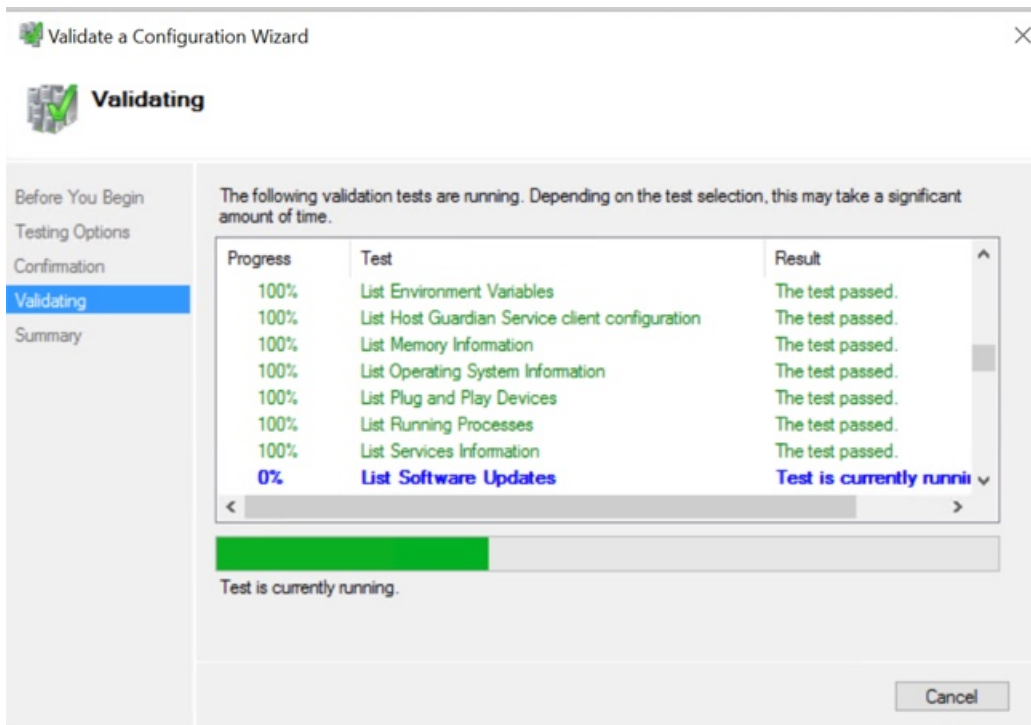


ステップ2 [Run all tests (すべてのテストを実行)] (推奨) を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



[Next (次へ)] をクリックすると、検証手順が開始されます。

ステップ3 検証に失敗がないことを確認します。検証に失敗した場合は、[View Report (レポートの表示)] をクリックし、[Failed (失敗)] したと表示された結果に対処します。



Hyper-V クラスタへの VM の展開

Hyper-V クラスタへの VM の展開は複数のステップからなる手順です。以下でこの手順を説明します。

- **管理ステーション/ホストへのリモートサーバ管理ツール (RSAT) のインストール :**
Hyper-V Manager や Failover Cluster Manager などの管理者ツールをサーバマネージャ機能としてインストールする必要があります。詳細については、[管理ステーションまたはホストへの RSAT ツールのインストール \(14 ページ\)](#) を参照してください。
- **VM の管理 :** HX クラスタ内のすべての Hyper-V ノードへの接続と新しい VM の作成は、Hyper-V Manager または Failover Cluster Manager を使用して実行できます。詳細については、[Hyper-V Manager による VM の作成 \(19 ページ\)](#) を参照してください。

管理ステーションまたはホストへの RSAT ツールのインストール

RSAT をインストールするには、次の手順を実行します。

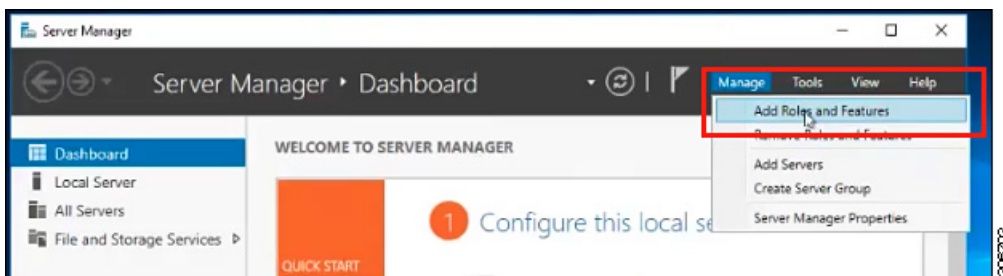
始める前に

RSAT ツールをインストールするには、次のものがが必要です。

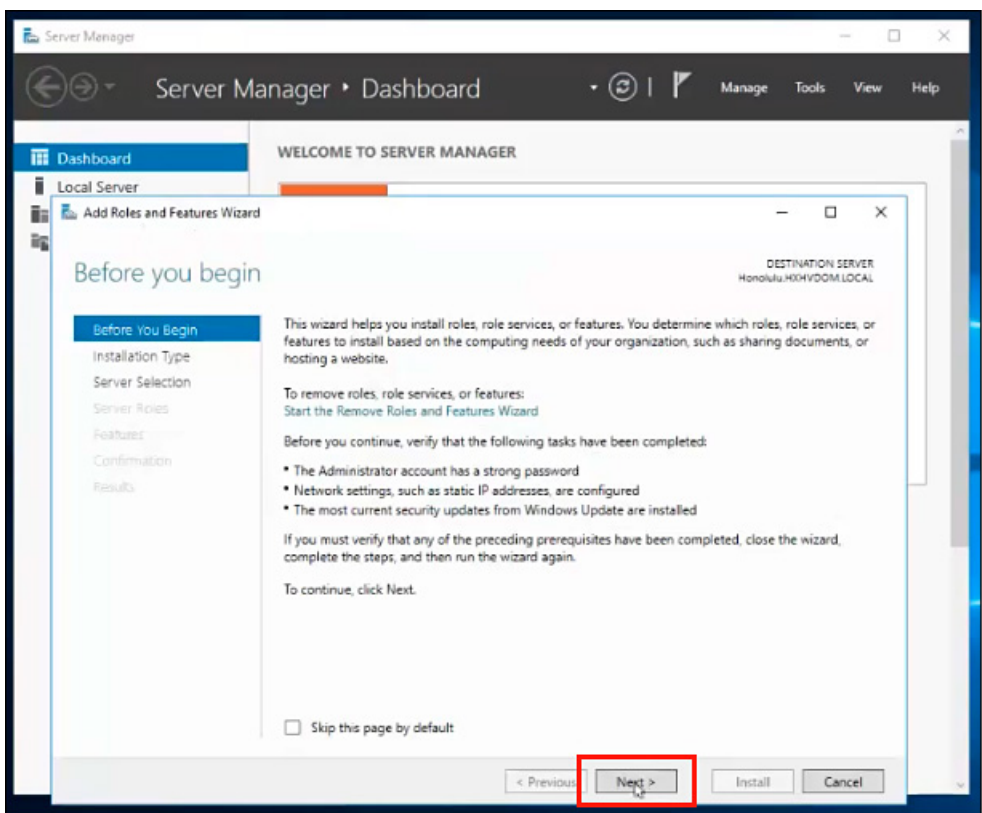
- VM を Hyper-V HX クラスタにインストールして、管理し、モニタすることができるサーバ。

- Hyper-V Manager、FCM、PowerShell、SCVMM などの管理ツール。

ステップ 1 サーバマネージャで、[管理 (Manage)] をクリックして、[ロールおよび機能の追加 (Add Roles and Features)] を選択します。[ロールおよび機能の追加 (Add Roles and Features)] ウィザードが表示されます。

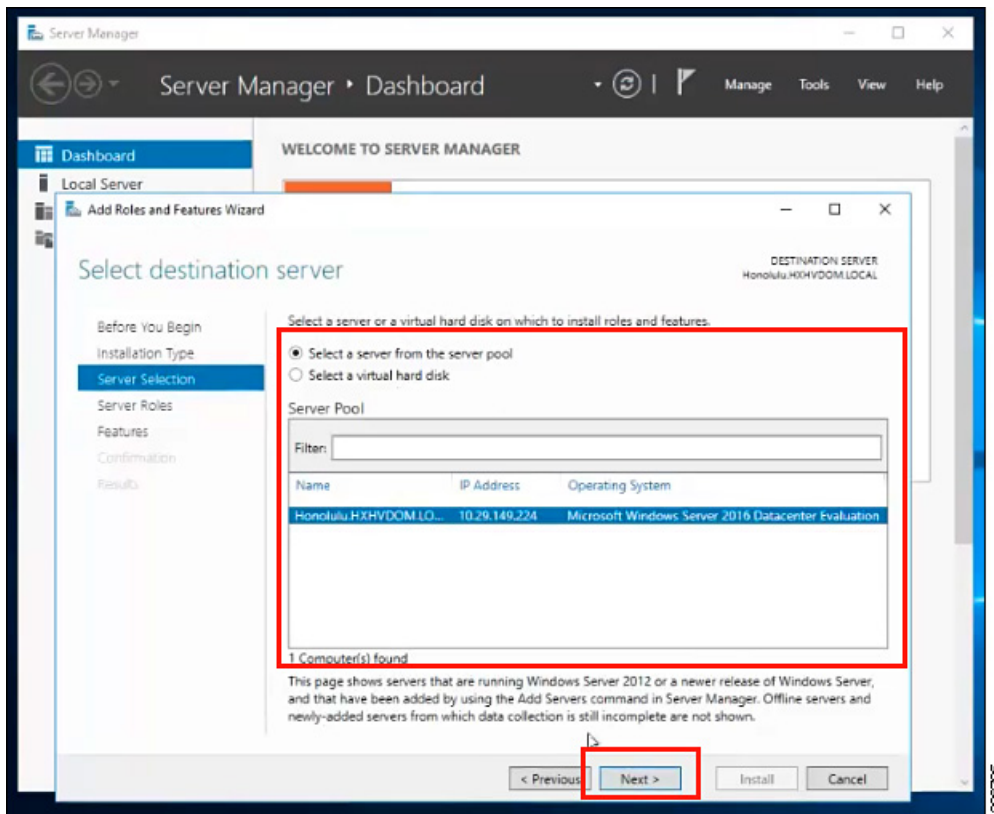


ステップ 2 [始める前に (Before you begin)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。



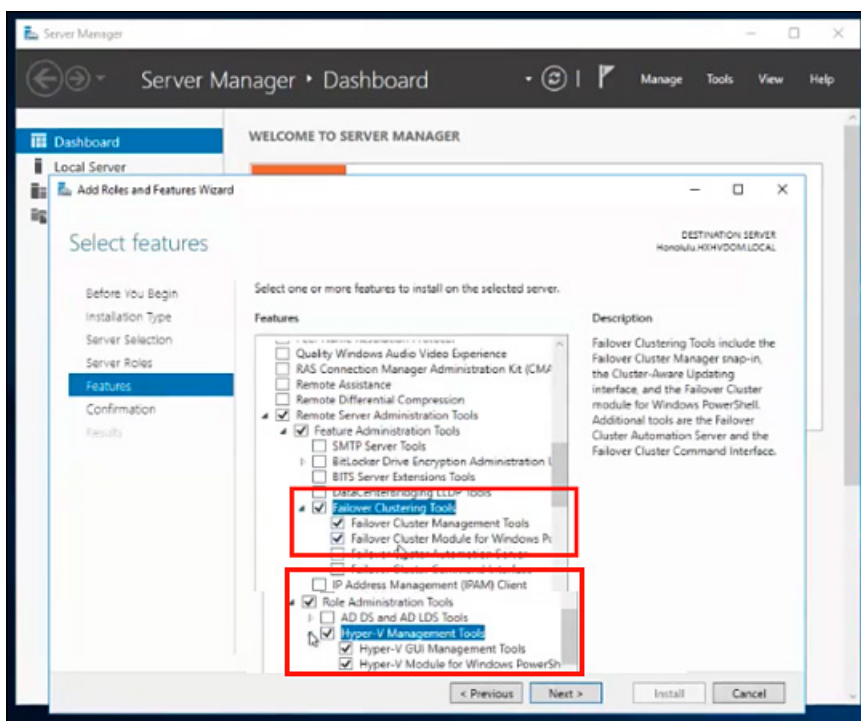
ステップ 3 [インストールタイプの選択 (Select installation type)] ページで、[役割ベースまたは機能ベースのインストール (Role-based or feature-based installation)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [サーバの選択 (Server Selection)] ページで、リストからサーバを選択します。このサーバは、HX クラスと同じドメインに属します。[次へ (Next)] をクリックします。



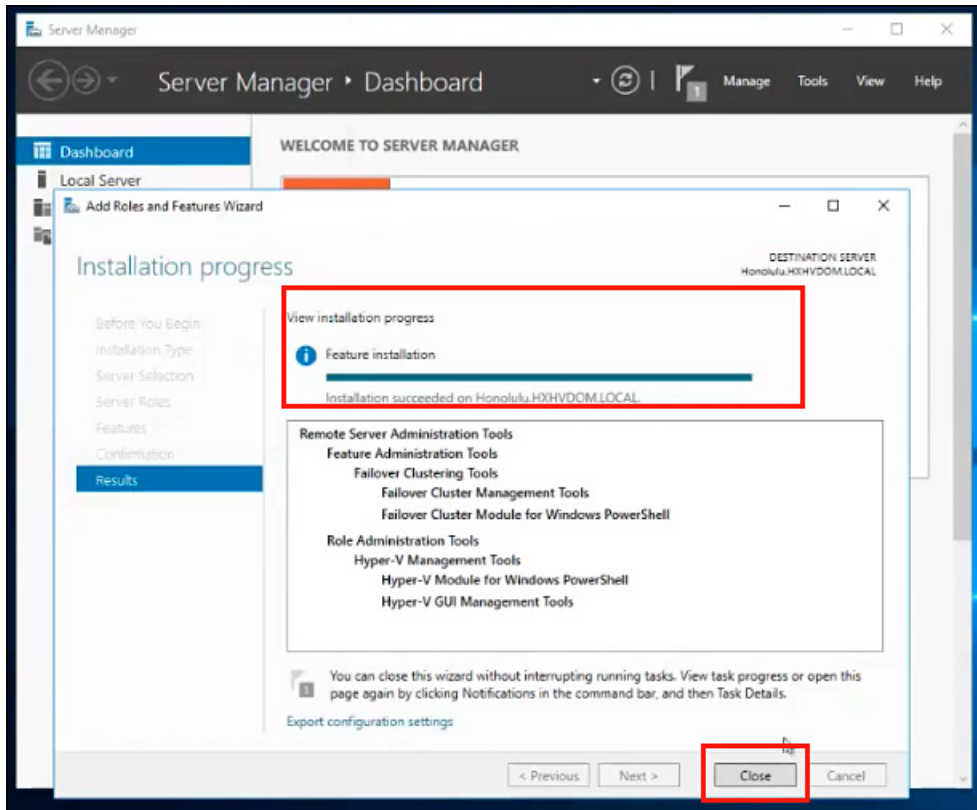
ステップ 5 [ロールの選択 (Select Roles)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [機能 (Features)] ページで、[リモートサーバ管理ツール (Remote Server Administration Tools)] > [機能管理ツール (Feature Administration Tools)] > [フェールオーバークラスタリングツール (Failover Clustering Tools)] と、[ロール管理ツール (Role Administration Tools)] > [Hyper-V 管理ツール (Hyper-V Management Tools)] > [フェールオーバークラスタリングツール (Failover Clustering Tools)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 7 [確認 (Confirmation)] ページで、[インストール (Install)] をクリックします。[必要に応じて宛先サーバを再起動する (Restart the destination server if required)] チェックボックスをオフのままにします。

ステップ 8 [インストールの進行状況 (Installation Progress)] ページに、インストールの進行状況が表示されます。インストールが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックしてウィザードを閉じます。



Hyper-V Manager による VM の管理

Hyper-V ノードへの接続

Hyper-V HX クラスタ内のすべての Hyper-V ノードに接続するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [サーバマネージャ (Server Manager)] ダッシュボードを開き、[ツール (Tools)] をクリックします。次に、[Hyper-V Manager] をクリックします。[Hyper-V Manager] コンソールが表示されます。
- ステップ 2 左側のペインで[Hyper-V Manager]を選択し、 [Connect to Server...] をクリックしてください。
- ステップ 3 [コンピュータの選択 (Select Computer)] ダイアログボックスで、[別のコンピュータ (Another computer)] を選択し、Hyper-V クラスタに属する Hyper-V ノードの名前 (「HXHV1」 など) を入力します。[OK] をクリックします。
- ステップ 4 Hyper-V HX クラスタ内の各ノードについて上記の手順をすべて繰り返します。

- (注) 新規インストールの場合は、ストレージコントローラ仮想マシン (StCtlVM) が、[Hyper-V Manager] コンソールの [仮想マシン (Virtual Machines)] ペインに表示される唯一の仮想マシンです。仮想マシンは、各ノードに追加されると、このペインの下のリストに表示されます。Hyper-V Manager を使用して VM を作成する方法の詳細については、次を参照してください：[Hyper-V Manager による VM の作成 \(19 ページ\)](#)

Hyper-V Manager による VM の作成

Hyper-V Manager を使用して VM を作成するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 **Hyper-V Manager** を開きます。
 - ステップ 2 Hyper-V サーバを選択し、右クリックして、[新規 (New)] > [仮想マシンを作成 (Create a virtual machine)] を選択します。[Hyper-V Manager 新規仮想マシン (Hyper-V Manager New Virtual Machine)] ウィザードが表示されます。
 - ステップ 3 [始める前に (Before you Begin)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 [名前とロケーションの指定 (Specify Name and Location)] ページで、仮想マシン設定ファイルの名前を入力します。仮想マシンのロケーションを入力して、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5 [世代の指定 (Specify Generation)] ページで、[第 1 世代 (Generation 1)] または [第 2 世代 (Generation 2)] のいずれかを選択します。
 - ステップ 6 [メモリの割り当て (Assign Memory)] ページで、起動時のメモリの値を 2048 MB に設定します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 7 [ネットワーク設定 (Configure Networking)] ページで、既存の仮想スイッチのリストから使用する仮想マシンのネットワーク接続を選択します。
 - ステップ 8 [仮想ディスクの接続 (Connect Virtual Hard Disk)] ページで、[仮想ディスクの作成 (Create a Virtual Hard Disk)] を選択し、仮想ディスクの名前、場所、およびサイズを入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 9 [インストールオプション (Installation Options)] では、デフォルトで選択されている [オペレーティングシステムを後でインストールする (Install an operating system later)] をそのままにしておくことができます。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 10 [概要 (Summary)] ページで、表示されているオプションのリストが正しいことを確認します。[Finish] をクリックします。
 - ステップ 11 Hyper-V Manager で、仮想マシンを右クリックし、[接続 (Connect)] をクリックします。
 - ステップ 12 [仮想マシンの接続 (Virtual Machine Connection)] ウィンドウで、[アクション (Action)] > [開始 (Start)] を選択します。
-

Failover Cluster Manager による VM の管理

Failover Cluster Manager による VM の作成

Failover Cluster Manager を使用して、Windows フェールオーバー クラスタ (Hyper-V HX クラスタとともにインストールされている) に接続し、新しい VM を作成するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 [Failover Cluster Manager] コンソールの [アクション (Actions)] ウィンドウで、[サーバに接続 (Connect to Server...)] をクリックします。
 - ステップ 2 [クラスタの選択 (Select Cluster)] ダイアログボックスで、[参照 (Browse)] をクリックして Hyper-V HX クラスタに移動します。[OK] をクリックします。
 - ステップ 3 左側のペインで、[Roles] > [Virtual Machines...] > をクリックします **新しい仮想マシン (New Virtual Machine) ...**。
 - ステップ 4 [新規仮想マシン (New Virtual Machine)] ダイアログボックスで、新しい VM を作成する Hyper-V ノードを検索して選択します。[OK] をクリックします。[新規仮想マシン (New Virtual Machine)] ウィザードが表示されます。
 - ステップ 5 [始める前に (Before you begin)] ページで、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 6 [名前とロケーションの指定 (Specify Name and Location)] ページで、VM の名前を選択し、VM を保存するロケーションまたはドライブを指定します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 7 [世代の指定 (Specify Generation)] ページで、使用する仮想マシンの世代 ([第 1 世代 (Generation 1)] または [第 2 世代 (Generation 2)]) を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 8 [メモリの割り当て (Assign Memory)] ページで、VM のメモリの容量を入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 9 [仮想ディスクの接続 (Connect Virtual Hard Disk)] ページで、名前、場所、およびハードドライブのサイズを入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 10 [インストールオプション (Installation Options)] ページで、OS のインストール場所を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 11 [サマリー (Summary)] ページで、選択したオプションを確認し、[完了 (Finish)] をクリックします。
 - ステップ 12 新しく作成された VM を右クリックし、[Connect...] をクリックします。[Virtual Machine Connection] ウィンドウで、[Start] を選択します。

(注) デフォルトでは、フェールオーバー クラスタ マネージャは、作成された 4 個のネットワークにデフォルト名を割り当てます。これらのネットワーク名の名前を変更することをお勧めします。

次のタスク

管理パスを介して HX クラスタ境界外からのデータストアアクセス要求のリダイレクトを有効にするには、Hyper-V マネージャ、フェールオーバー クラスタ マネージャ、または SCVMM

コンソールを実行している (リモート) マシン上のホスト ファイルに次のエントリを追加します。たとえば、C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts を編集して次を追加します。

```
cluster_mgmt_ip \\smb_namespace_name\datastore_name
10.10.10.100 \\hxcluster.company.com\ds1
```

SCVMM ホストへのデータ パス アクセスの開始

SCVMM ホストへのデータ パス アクセスを開くには、次の手順を完了します。

始める前に

Cisco HX リリース 4.5 以降では、FixScvmmAccess.py スクリプトを python3 で呼び出す必要があります。



(注) FixScvmmAccess.py にはルート アクセスが必要です。

手順の概要

1. クラスタ管理 IP アドレスへのセキュア シェル ログイン セッションを開始します。
2. 次の情報を確認して、クラスタ内のアンサンブル メンバを判別します。
3. 現在の SSH ログインセッションから、**crmZKEnsemble** パラメータに表示されている任意の IP アドレスへの SSH セッションを起動します。
4. 追加パラメータを指定せずに次のスクリプトを実行します。
5. SCVMM IP アドレスを追加し、SSH セッションを終了します。

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ管理 IP アドレスへのセキュア シェル ログインセッションを開始します。	
ステップ 2	次の情報を確認して、クラスタ内のアンサンブルメンバを判別します。	<pre>root@ucs900scvm:~# cat /etc/springpath/storfs.cfg grep crmZKEnsemble crmZKEnsemble=10.107.48.14:2181,10.107.48.15:2181,10.107.48.16:2181 root@ucs900scvm:~#</pre>
ステップ 3	現在の SSH ログインセッションから、 crmZKEnsemble パラメータに表示されている任意の IP アドレスへの SSH セッションを起動します。	
ステップ 4	追加パラメータを指定せずに次のスクリプトを実行します。	<pre>python/opt/springpath/storfs-hyperv/FixScvmmAccess.py</pre> <p>スクリプトは、SCVMM IP アドレスを入力するように要求します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	SCVMM IP アドレスを追加し、SSH セッションを終了します。	

SCVMM への HyperFlex 共有の設定

始める前に

VMM 管理コンソールを実行しているホスト上の /etc/hosts ファイルを編集して、**smb** アクセス ポイントを HyperFlex クラスタのクラスタ管理 IP アドレスに解決します。この IP アドレスは、通常、Cisco HX Connect の起動に使用されます。

The complete path is : C:\Windows\System32\drivers\etc
Open the "hosts" file in the above directory in Notepad or any other text editor and add the following entry in the bottom :

```
<CMIP> <smb_share_namespace>
```

CMIP will be the Cluster Management IP which is usually used to open HX connect UI.

For example,
10.10.10.1 hxhv smb.example.com

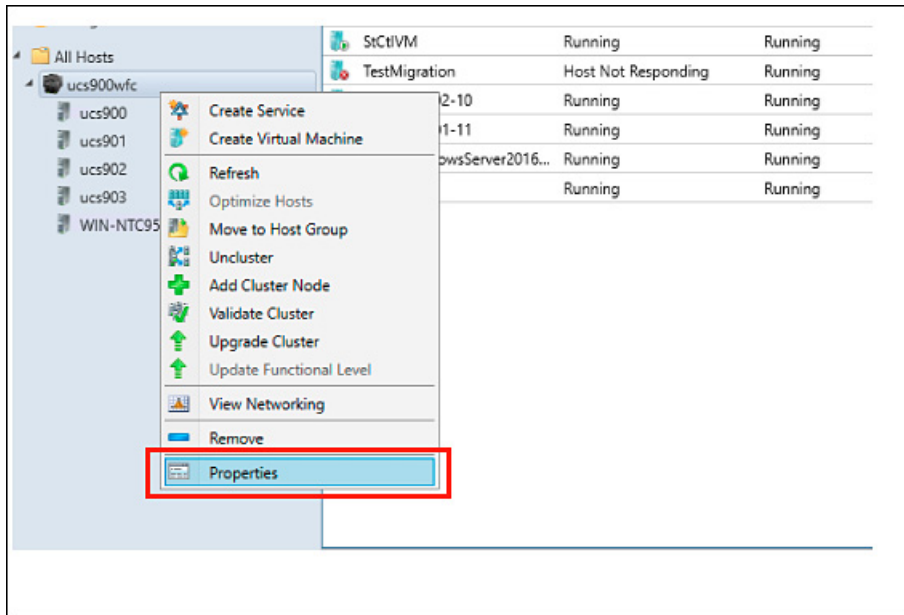


(注) SCVMM の実行アカウントの場合は、Active Directory (AD) の対応する HyperFlex 組織単位 (OU) に対して **hxadmin** (または **FULL** 権限を持つ他のドメイン管理者アカウント) を使用することをお勧めします。

ステップ 1 クラスタを **System Center - Virtual Machine Manager (VMM)** に追加します。

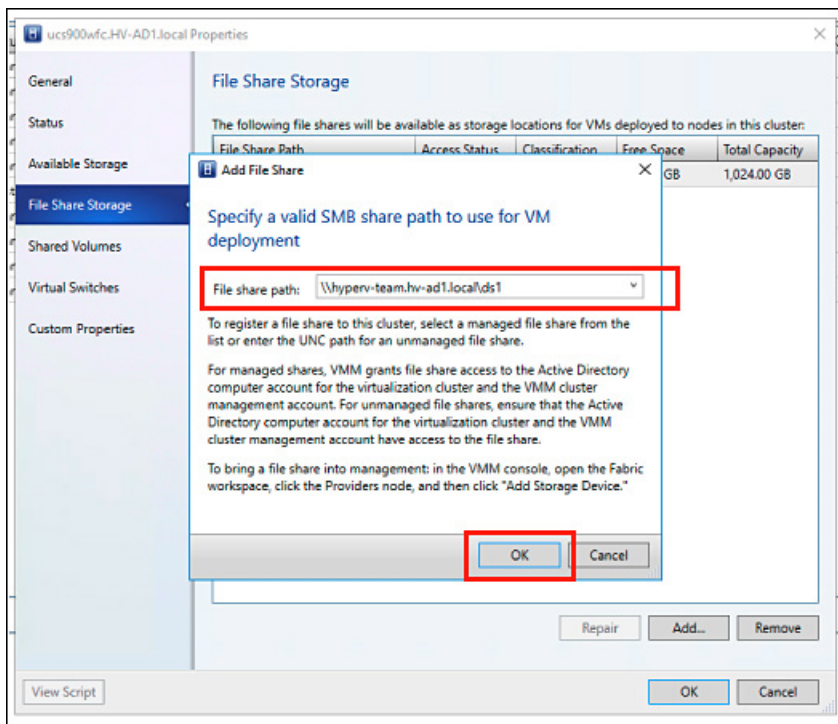
ステップ 2 VMM コンソールで、[ファブリック (Fabric)] > [サーバ (Servers)] > [すべてのホスト (All Hosts)] に移動します。

ステップ 3 クラスタを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。



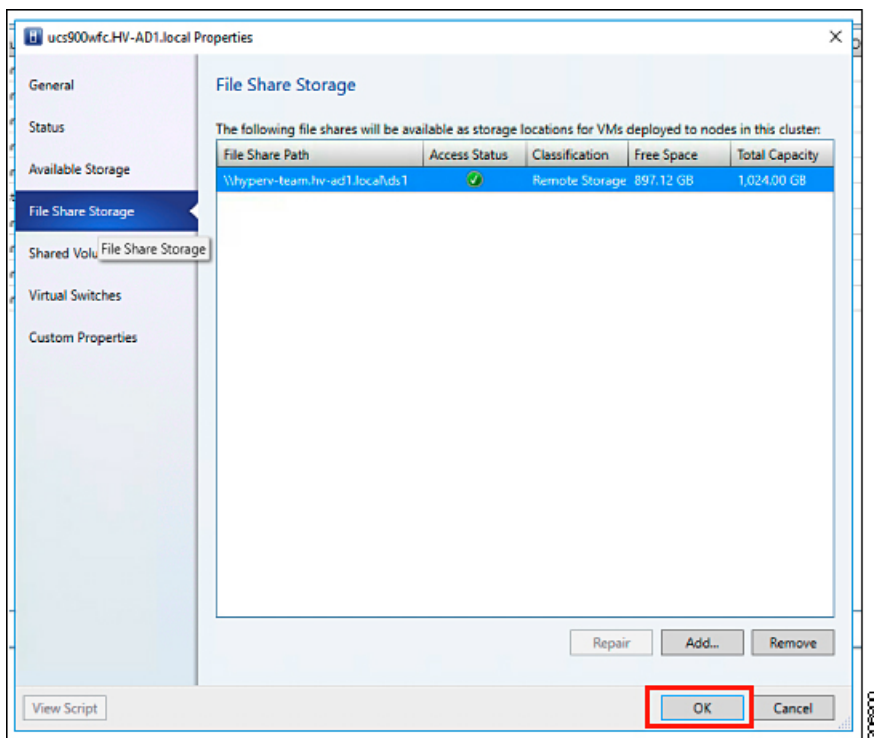
306798

ステップ4 [プロパティ (Properties)] ウィンドウで、[ファイル共有ストレージ (File Share Storage)] > [ファイル共有ストレージの追加 (Add File Storage)] を右クリックします。



306798

ステップ5 マッピングが完了すると、次のスクリーンショットのように共有が追加されます。



ステップ 6 [OK] をクリックして VMM を終了します。HyperFlex 共有がマッピングされており、SCVMM を使用してこの共有上に VM を作成できます。

Windows Defender の再有効化

次のコマンドを実行して、Windows Defender を再度有効にします。

PowerShell からの Defender のインストール

```
Install-WindowsFeature -Name Windows-Defender
```

(オプション) PowerShell からの Defender GUI のインストール

```
Install-WindowsFeature -Name Windows-Defender-GUI
```

ホスト間の VM の移行

始める前に

スタンドアロンホストと HX Hyper-V ホスト間の VM 移行を実行するには、次の手順を実行します。この手順を実行する前に、お使いの環境が次の前提条件を満たすことを確認してください。

- 送信元コンピュータと宛先コンピュータは、同じ Active Directory ドメインに属しているか、相互に信頼するドメインに属します。

- Failover Cluster Manager で、送信元と宛先の両方の Hyper-V ホストにライブ移行設定を設定します。

-
- ステップ1 **Hyper-V Manager** を開きます。
- ステップ2 [navigation (ナビゲーション)] ペインで、[HXHVINFRA2] を選択します。
- ステップ3 [Action (アクション)] ペインで、[Hyper-V Settings (Hyper-V 設定)] > [Live Migrations (ライブ移行)] をクリックします。
- ステップ4 [Live Migrations (ライブ移行)] ペインで、[Enable incoming and outgoing live migrations (有効な着信および発信ライブ移行)] をオンにします。
- ステップ5 [Incoming live migrations (着信ライブ移行)] で、[Use the IP addresses for live migration (ライブ移行に IP アドレスを使用する)] を選択します。[Add (追加)] をクリックし、次に [OK] をクリックします。これにより、[Move (移動)] ウィザードが開きます。
- ステップ6 ウィザード ページを使用して、移動、宛先サーバ、およびオプションのタイプを選択します。
- ステップ7 [Summary (サマリ)] ページで、選択したものを確認し、[Finish (終了)] をクリックします。
-

ストレージデータネットワークのアップストリームフェールオーバーのテスト

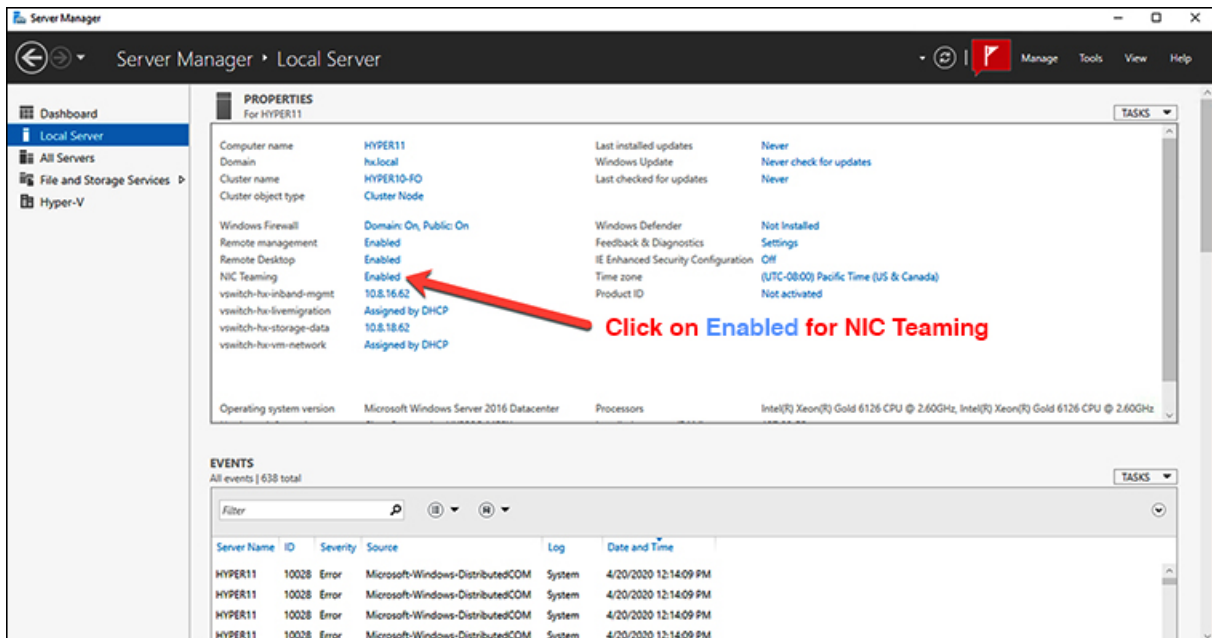
ストレージデータ ネットワーク ジャンボ フレームが FI-A と FI-B の間で通信するように、アップストリーム (トップオブラック (ToR)) を設定します。



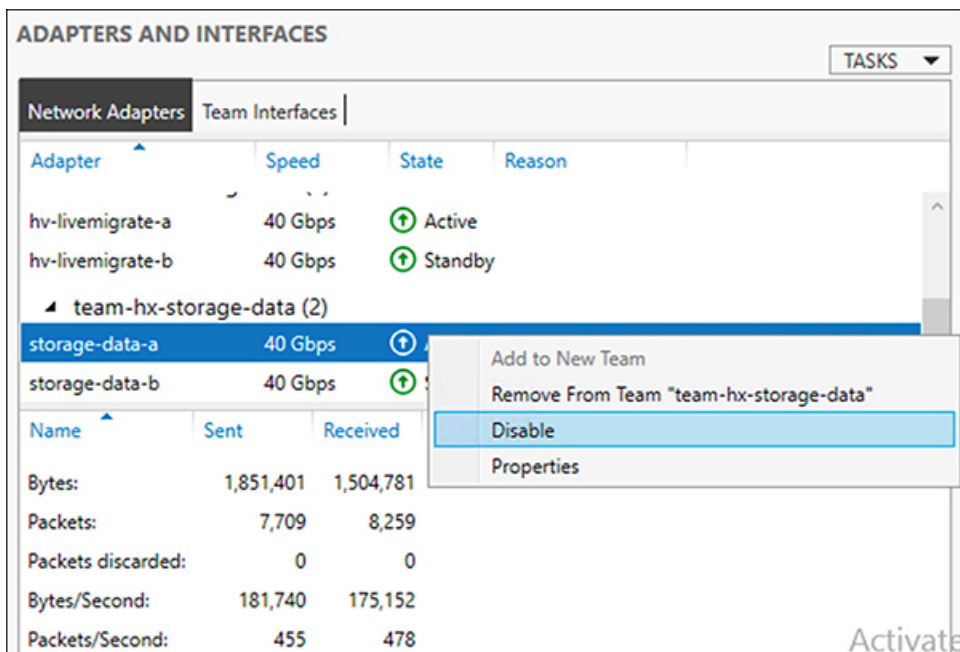
- (注) 場合によっては、クラスタが 1500 サイズのフレームを使用するように設定されているため、ジャンボ フレームの ToR を設定できないため、1500 ベースのフレームが使用されます。ping テストでは、ToR 全体の基本的な 1500 フレーム接続をテストできます。
-

- ステップ1 単一の Hyper-V ホストに HX サービス アカウントとしてログインします。
- ステップ2 [サーバー マネージャ (Server Manager)] > [ローカル サーバー (Local Server)] を開きます。
- ステップ3 NIC チューニングの [有効化 (Enabled)] をクリックします。

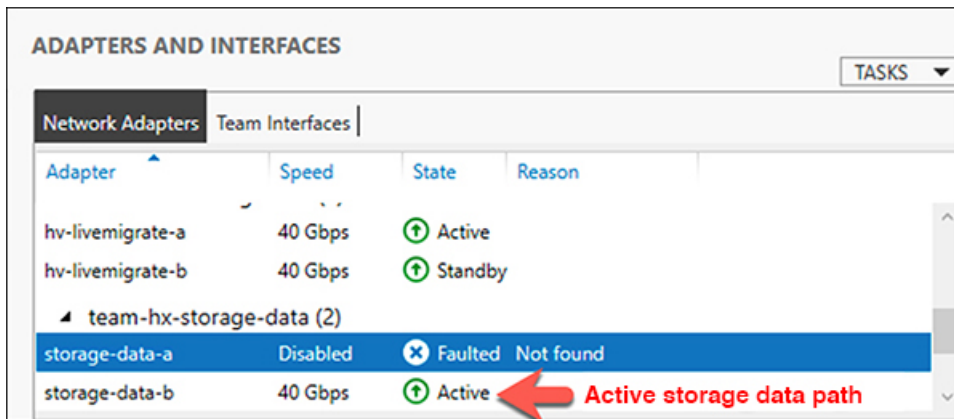
ストレージ データ ネットワークのアップストリーム フェールオーバーのテスト



ステップ 4 storage-data-a を右クリックし、[無効化 (Disable)] を選択します。



これにより、FI-B の storage-data-b インターフェイスがデータのアクティブ パスになります。



ステップ 5 ローカル PowerShell ウィンドウからリモート ホスト ストレージデータ IP アドレスへのジャンボ ping をテストします。次に例を示します。

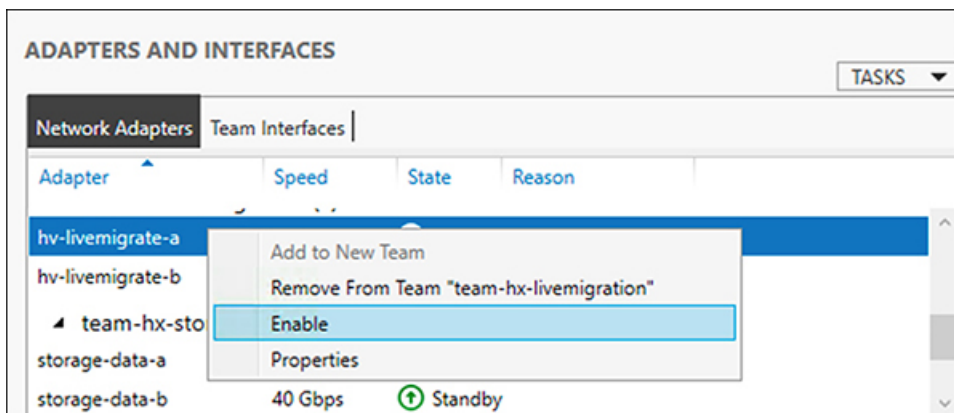
```
# ping -f -l 8000 <data_ip_address_of_other_hosts>
```

```
PS C:\Users\administrator.HXDC-DOMAIN> ping -f -l 8000 10.8.18.63

Pinging 10.8.18.63 with 8000 bytes of data:
Reply from 10.8.18.63: bytes=8000 time<1ms TTL=128
Reply from 10.8.18.63: bytes=8000 time<1ms TTL=128
Reply from 10.8.18.63: bytes=8000 time<1ms TTL=128
Reply from 10.8.18.63: bytes=8000 time<1ms TTL=128

Ping statistics for 10.8.18.63:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

ステップ 6 右クリックして [有効化 (Enable)] を選択し、storage-data-a チーム インターフェイスをアクティブにリセットします。



ADAPTERS AND INTERFACES

Network Adapters | Team Interfaces

Adapter	Speed	State	Reason
hv-livemigrate-a	40 Gbps	Active	
hv-livemigrate-b	40 Gbps	Standby	
team-hx-storage-data (2)			
storage-data-a	40 Gbps	Active	
storage-data-b	40 Gbps	Standby	

Original Configuration

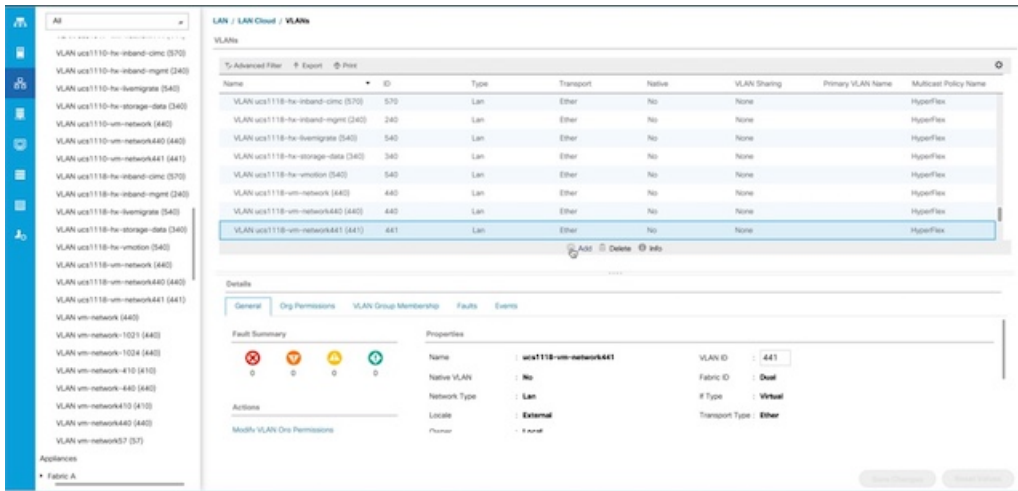
インストール後の VLAN の追加

インストールの完了後に VLAN をクラスタに追加するには、次の手順を実行します。

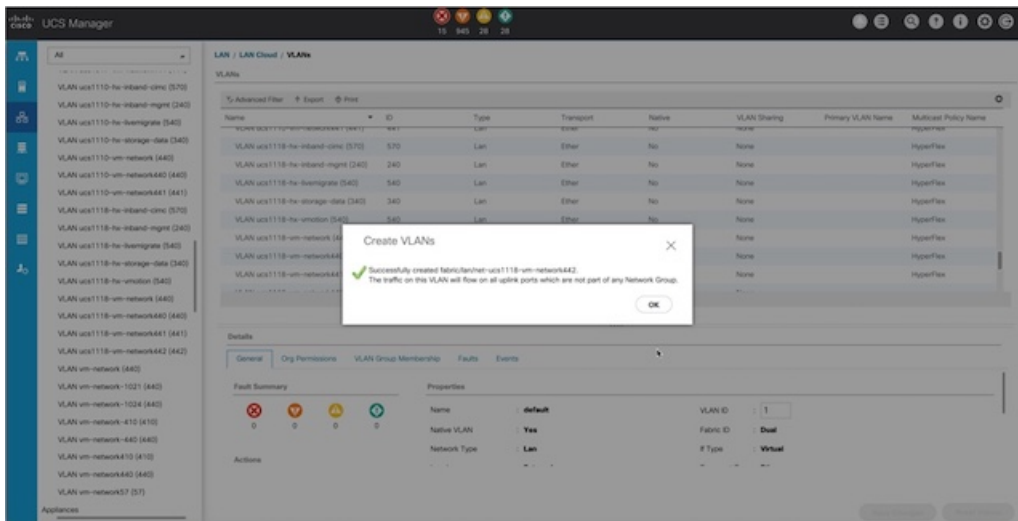
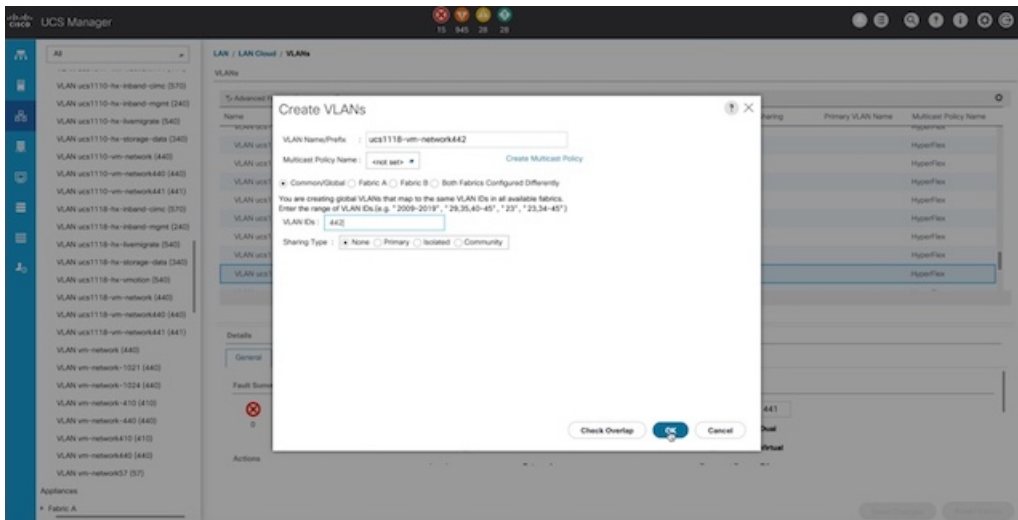
ステップ1 Cisco UCS Manager では、**LAN > LAN Cloud > VLANs**に移動します。

The screenshot shows the Cisco UCS Manager interface. On the left, the navigation pane is expanded to 'LAN > LAN Cloud > VLANs'. The main content area shows a table of VLANs with columns: Name, ID, Type, Transport, Native, VLAN Sharing, Primary VLAN Name, and Multicast Policy Name. Below the table, the 'Details' section for a selected VLAN is visible, showing properties like Name (default), Native VLAN (Yes), Network Type (Lan), Locality (External), and Transport Type (Ether).

ステップ2 新しい VLAN を追加するには、VLAN テーブルの最下部にある [追加] 記号をクリックします。



ステップ3 VLAN名/プレフィックスとVLAN IDを入力します。



ステップ 4 必要な Hyper-V VM で新しい VLAN にタグを付けます。

(注)

- 追加の Hyper-V ネットワーキング構成は必要ありません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。